

環境保全・利用の民俗知 —奄美大島南部の墓地利用に注目して—

兼城糸絵

A Study of Local Knowledge on the Utilization of Natural Environment in Amami-Oshima Island

KANESHIRO Itoe

鹿児島大学法文学部

Faculty of Law, Economics and Humanities, Kagoshima University

要旨

今年度は、集落の土地利用とそれに対する人々の認識について明らかにすべく、奄美大島宇検村にて墓地の利用状況に関する調査を行った。その結果、人口構成の変化に伴い、墓地の形態や利用方法も変化しつつある様子が浮かび上がってきた。

環境が人間と自然の相互作用によって形成されるものであると考えた場合、自然そのものの変化もさることながら、環境を構築する人間がもつ文化的側面にも注目する必要がある。報告者はそのような問題意識にもとづき、奄美大島南部における墓地の利用状況に注目し、人と環境の関わり方の変化について調査をすすめている。調査地となる奄美大島南部は、山と海に挟まれるようにして集落が点在しており、特に平地が少ない地域ではどのように土地を利用していくのが問題となってきた。近年では、若年層の流出が続いている上に高齢化が進行していることもあって、集落を構成する人口の変化が土地利用や環境認識に与える影響も少なくないことが予想される。そのひとつとして、墓地を挙げることができる。

墓地は死者を埋葬した(する)場所でもあるが、そこはあの世とこの世との境界としても考えられている。奄美の墓地を観察していると、盆以外の時期にも花を供える人や掃除する人をみかけることがよくある。そこから、人々が定期的に墓地に通い、そこに眠る家族とコミュニケーションをとっていることがうかがえる。特に、祖先は子孫を守護する存在としても認識されているため、人々は祖先が快適に過ごせるよう墓地の環境整備を怠らない。そのため、墓地は集落に住む人々にとって身近で重要な存在であり、そうであるがゆえに集落に残る人々(特に老人たち)は、今後誰がどのように墓地を管理していくのかという問題に頭を悩ませている。

このような状況の中、近年では墓の管理に関する問題や経済的な負担を解決すべく、旧来の墓地を廃し集落ごとに共同で納骨できる施設を建設するというケースが続々と登場して

いる。奄美大島の場合、その動きは特に宇検村で報告されてきた。宇検村では、1970年代に田検集落に作られた「精霊殿」(図1)を皮切りに、14集落中7集落が納骨施設を完成させている。近隣の村や町も同様に過疎化を迎えているにもかかわらず、なぜそのような動きが特定の地域に集中しているのか、そして、墓地の変化は集落の環境に対する認識の変化とどのように関わるのかという点についてはまだ十分に研究が行われている訳ではない。

以上を踏まえ、今年度は奄美大島宇検村湯湾集落における納骨施設について現地調査を行った。湯湾集落は、報告者が調査を行った2015年8月の時点で250世帯、約480人が住んでいた。集落自体の高齢化が進んでいることに加え、平均世帯員数が2名に満たないことから、高齢者の一人暮らしあるいは夫婦のみの世帯が多い可能性が高い。インフォーマントによれば、湯湾集落の場合、年々住民の高齢化や人口減少が進み、墓の行く末を心配する老人たちの声をうけて納骨施設の建設に至ったという。しかし、着想から実現まで10年以上かかっており、意見の統合や予算の確保といった面での苦労がうかがえた。湯湾集落にはもともと墓地が2箇所あったが、納骨施設を建設するにあたって両方の墓地にあった墓は利用者が不明な一部の墓を除いてすべて取り払われた。墓地に納められた骨も同様に取り出され、2015年に完成した納骨施設「精霊殿」(図2)の内部に納められることになった。

「精霊殿」の中には200近い納骨スペースが設けられ、そのほとんどが集落の出身者によって利用されている。もちろん無料ではないが、利用者の条件によって金額の設定も変えられていた。「精霊殿」では宗教者が定期的に祭祀を行うことはなく、基本的には死者の家族が祭祀を行うが、個別の供養スペースというものは設けられていない。このような形式は、従来の墓地とは大きく異なっており、今後の利用方法や墓地そのものに対する認識の変化が注目される。

また、興味深いのは、完成後から奄美大島内の老人会から見学の申し込みが絶えなかったことである。湯湾集落の区長によれば、遠くは笠利から老人会がピクニックがてら「精霊殿」を訪れており、熱心に見学していたという。このことから、将来的には奄美大島全土で同様の動きがみられる可能性も高い。今後も引き続き調査を進めていきたい。



図1 田検集落の納骨施設



図2 湯湾集落の納骨施設。時代によって、建物の形式にも変化がみられる。